

福岡大学医学会ニュース

福岡市博多区東那珂一丁目10-15

新たな発展を目指して

医学部長 菊池 昌弘



新年おめでとうございます。福岡大学も五周年の節目をこえて第二年目に入り、医学部も十二年目を迎えることになりました。私にとって二期目としての責任の重大さを強くかんじている所でありま

ては、よき臨床医を育てることが第一に挙げられています。この目的のためにわれわれはこの十二年間努力を重ねており、一応の評価を得ています。しかし、医学部を取り巻く環境は年々厳しさを増して来ています。福岡大学にあって当然その波に対処してこれを乗り越えて行かねばなりません。政府は医学部定員の一〇％減少を打ち出しますので国立大学ではその実行が始まっています。私立大学でも当然このことは考えざるを得ない所であります。また国家試験制度の変更により昨年から一度の試験にかわり、学生にとっても大きな精神的重圧が加わっています。さらに、医師過剰の問題は卒業後の進路についても今後多くの問題を含むものと考えられます。このような現実を前に我々としてはできるだけ対応を考えなければなりません。素質のある学生をできるだけ多く入学させ、六年間の間に、医師となるべき基礎を充分につけさせ、わが医学部の卒業生が立派に評価されるようになるべきではありません。このような事柄は、

当然いづれの医科大学でもそれぞれに考え、対応を模索しています。が、よくに新設私立医科大学では、その存亡に係わる重大事として、早急かつ具体的な対策が必要となっています。これに關しては二年前に、医学部長として、新しい年を迎えての抱負とこれからの医学部への期待として問題点を掲げましたが、そこに掲げていた多くの問題点が、そのままでの事に結びつくものでありますので、提示した問題点についてこの二年間に成しえたこと、残されているものについて触れながら今後の抱負を述べたいと思います。

第一に教育についてですが、それまでに制定された新カリキュラムの完成があります。新カリキュラムは、現在の五年次生からであ

りますので来年度に完成を迎えるわけです。幸い各学年とも、主担任、副担任の努力もあり一応の目標は到達しつつあるようですが、その評価は、昭和六十二年以降の国家試験で明らかにされるものと思います。これと共に教育環境、設備の改善として挙げられています、医学情報センターは完成した、視聴覚教育の充実、六年次学生、自習室の整備がなされ、現在その利用による効果が次第に明らかと成りつつあります。自習室については、さらに旧図書館の跡を五年次生の自習室ならびにSGT用のカンファレンス室として整備することに、本年二月末には完成の予定となっています。このような設備の充実の効果が明らかになれば、今後はさらに低学年にも

広げること考えられます。さらにカリキュラムの内容についてもよりきめ細かい対応を考え、各教科の時間数、時期についても現実を眺めながら柔軟に対処すべく努力を続けています。これに伴い、教育スタッフの充実も挙げられていましたが、教育単位の拡充や教授陣の充実を実現したいと思えます。さらに昭和六十一年度から、膨大な医学情報を処理し、これを有効に用いることのできるように新しく情報学を一般教養科目に設けたことも一つの進展であります。第二には入学試験に関する問題が挙げられます。一般推薦制度の採用は昭和六十一年度で三年目を迎え、ほぼ定着して来ましたが、推薦入学者の成績は、予想どおりで、クラスの中軸として育ち

つづあるようです。昭和六十一年度からは更に、附属高校からの特別推薦制度による、優れた現役学生 の確保も始まり、一層の充実が計られるようになったことも今後明 るい話題であります。推薦制度に ついては、今後どのように発展さ せていくかが、これから大きな 課題となっています。試験日な らびに方法の変更についても試験日 を早め、二次試験を止めるという ことが昭和六十二年度から実現し、その成果が期待されています。今 後の問題としては、医学の内容の 多様化からみて、果たしてこれま でのように医学部を単に理系とし てとらえるだけでよいのであろう かということや、他学部卒業生の 編入制度をも併せて考えねばなり ません。また国際交流の面からみ

て外国人入学制度についても、考えを進めなければなりません。適性検査（MCAT）については、その評価がそろそろ明らかになりそうですので、配点のことを含めて検討すべきかも知れません。第三に卒後教育について、分院の設置が挙げられていましたが、幸い昨年七月には筑紫病院が開院し新たな教育の場が出来上がりました。ただ、まだ完全には病棟が開かれていないことや、研究管理棟の完成が来年になることから、十分に教育施設として整備されていませんので、速やかな完成が待たれます。第四に環境整備の問題を探り上げていました。駐車場については、二十四時間監視体制を調えた約四五〇台が止められるスペースが確保され、安全対策の面は

ほぼ満たされました。ただ教育ス
ペースの拡張、学生の課外活動の
場の改善整備については特に進展
を見ていませんので、今後の課題
としてさらに押し進めるように努
力したいと思っています。ただ大
学で計画されているセミナーハウ
スは本年秋には完成の手定ですの
で、外国よりの来訪者の宿泊や、
研修会などに活用できるものと思
われます。

以上述べましたようにかなりの
点では発展がみられていますが、
まだ残された問題点も多いようで
すので、これからの新しい課題を
ふくめて、医学部、病院の方々と
ともに、少しずつでも、医学部、
病院がより良い方向へと進み続け
ることができればと考えてます。

二十一世紀への対応

福岡大学病院長 志村秀彦



最近、医療状況はとみに切迫し
つつある。赤字国債発行による国
家財政の窮迫、健保財政の破綻、
助成金の削減、薬価基準の切下げ、
医師税法の見直し、病院運営への
しめつけ等々、この二つをとって

見ても、これからの医療経営を圧迫する悪材料ばかりである。

この厳しい医療状況の中にあつて、福大病院はどうあるべきかをもう一度真剣に考え直す必要がある。大学病院のあり方は教育・研究・診療の三本柱で成り立っている。従つて、医学科と密接な連携を保ちながら、卒前・卒後の臨床教育と研究を進めるとともに、最高にして最新の医療技術を提供して、地域医療に貢献することである。

最近、専門分科の風潮に乗つて、病気を点や線としてとらえようとすることがある。体や面として捕

「術はうまくいきませんが、残念ながら助かりませんでした」時々外科医の口からこんな言訳を聞くことがある。本末転倒も良いところである。戦争に敗けたのに局地戦には勝ったと言ったのと同じである。外科医としての本質を疑われても仕方のない言訳である。病気を治すための手術ではあるが、「病気がから生命を救うための手術であること」を忘れた結果の言訳にすぎない。「全力を尽くし

「おれは医者である。おまえの病気を治してやるからついて来なさい」こんな医者もいる。自信満々の血氣盛りの医師に多い。本當に病氣を治せる医師がいるであらうか。神が与えてくれた自然治癒力の偉大さを知つておれば、病氣を治してやるとは言えないはずである。自然治癒力をオーバーする侵襲が加えられた時はどうな

また、こんな医師もいる。最新の医療機器や技術が導入される、と、すぐに飛びついて生半可な知識をひけらかす医師である。新しい機器に精通して有効に利用することは、大切な事である。しかし、これによって従来の手技がおろそかにされると取り返しのつかない結果を招くことになる。勿論、この手や頭脳には限界もある。この

「ず」という言葉がある。何か一つの道に精通するや何ででもできるようにするという意味にとられ易いが、そんな生やさしいものではない。もちろん、一芸に秀でた人にはそれだけの才能があるとは思われるが、昔の人が一芸に秀でたためにとれだけの苦勞を重ねて来たのか、最近の若者には分らないかも知れない。長い長い見習いや徒弟生活を通じていろいろなことを身をもつて教えられ、経験してい

秘のルをかぶつたまま鎖を出さない。生半可な知識は己れの視野を狭めるだけである。周りにある沢山の説を謙虚に受け入れて反芻することこそ真実への入口を見つけ出す鍵でもある。学者ならいざ知らず、臨床医ともなると真理を見つけ出すことは至難の技である。病気は似ていても患者は一人一人違っている。病気への反応もそれぞれ特有である。一人の患者から得られた一つの事実は他の患

究・診療を二本柱とする大学病院である以上、医学の最先端を行く最高の設備と技術を備えることは必須の条件であるが、やむを得ずハード部門だけが先行して、ソフト部門だけに伴わない傾向がある。本当はソフト部門があつてこそ、ハード部門が動き出すはずなのに、人間の持つ射幸心とギャンブル性がそこをさせるのであつた。

はじめての新春を迎えて

福岡大学筑紫病院長 浅尾 学



明けましておめでとう
す。

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing thick-rimmed glasses, a white shirt, and a dark tie. The portrait is set within an oval frame.

奥村前院長は、筑紫病院の設立準備の時期から、非常に厳しい内外の問題を克服され、開院にこぎつけ、さらに約半年間、病院を軌道にのせる基盤づくりをされました。奥村先生の御努力に深い敬意を感じています。

奥村先生が、筑紫病院の設立準備の時期から、非常に厳しい内外の問題を克服され、開院にこぎつけ、さらに約半年間、病院を軌道にのせる基盤づくりをされました。奥村先生の御努力に深い敬意を感じています。

現在の総合病院化を目標にし、これを昭和六十二年五月に設定しています。

現在、管理部門や医局などは五階の本来の病棟に仮住まいしていますが、当初、予定の三四五床を確保し、総合病院化と大学病院としての機能を持たせるため、この

に望みます。ここ数年の医療に対する行政の取組み方から、医療経済は、ますます厳しさを増すと考えられ、一方、老令化が進む国民の医療に対する考えや要望も多様化していくと思われます。

この私どもの筑紫病院は、生まれたばかりの病院であります。厳

確かである。機械文明が進み、機械が人間の代りをとする時代もそう遠くないであらう。機械なくしては、もはや生きてゆけない環境になった時は、人間がその存在価値を失う時でもある。天変地災が起り、機械が破壊され尽くした時、機械に頼っていた人々は当然生き

また、こんな医師もいる。新しい外国からの論文を読みかじって一説をたて、得々として自分の知識をひけらかして「この方面では第一人者である」と豪語する医師である。新しい説、それは貴重なものではある。その説が立てられるまでの涙ぐましい努力のあととは

知の事である。

医療は患者と医師との信頼の上に成り立つ一対一の関係であることからすれば、医師は患者の信頼に応えるために患者からできるだけの情報をつかみ、総合してより真実に近い病態を把握した上で、最も相応しい治療法を見つけ出す

あるいは国家に於いて、どんなに貴重な遺跡にしても農夫にとって路傍の石ころに過ぎず、やっかいな代物であることには間違いない。物の価値はそれを利用し、あるいは適正に評価する人の目と心によって決められることを忘れてはいけない。物よりも精神の充ち足り、物の豊かさよりも心の豊かさ

昨年七月開院したばかりの福岡大学筑紫病院にとっては、最初の新年を迎えたわけであります。また、私もこの一月より奥村前院長の後を継いで院長を拝命したばかり

しかし、このような目標を表現するには、いろいろな課題があります。このうち最も緊急なものは、管理棟の建築であります。もとと築紫病院は、本学を卒業し

五階部分を全部本来の病棟にもどす必要があります。今の多くの機能面の障害を取り除くだけでなく、将来の卒前・卒後教育の導入や総合病院化に見合ったスペース

しい医療現状の中を生き抜くだけでなく、発展するにはどうすべきか、じっくり取組んでみたいと思っています。

(二画くひん)

てゆけない。結局は自分の手で、
そして自分の頭脳で生きるすべを
知った人達のみが生き残るはずで
ある。

分かる。しかし、説は説にすぎない。事実ではあるが、真実（真理）であるかどうかは分からない。沢山な事実をつまみ出し、洗ひ出さないと真実はつかめない。

ことが肝要である。このためにはそれなりの基礎知識と豊富な経験が必要であるが、先入観に捕われることなく、常に客観的に冷静に患者を眺め、病氣と対決する姿勢

こそ大切である。優秀な人材を集め、育成して、豊かなぞして活気ある病院にしたて上げることが、二十一世紀を乗り切れる唯一の方策であると信じている。

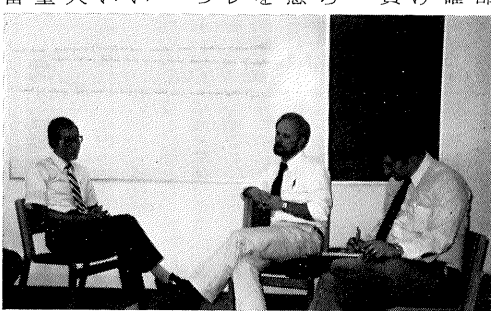
海外便り

トピカ・カンザスにて

残りの少ないアメリカ研修生活のなかで、一日一日がとも貴重に感じられる毎日を過ごしている。十一月第四曜日の今日は、私たちが家族にとって二回目のサンクス・ギビング・デーで、久しぶりに長い息抜きのできる連休の初日です。ある家庭に招かれて心ゆくまでアメリカ人家庭の暖かさを楽しんで帰ってきて、この海外研修生活の思い出を書いている。

トピカ・カンザスにて

留学生活の最初から、アメリカ人の考えをどう理解し、それにどう適応していくかの連続である。今回の留学生活の最初から、アメリカ人の考えをどう理解し、それにどう適応していくかの連続である。今回の留学生活の最初から、アメリカ人の考えをどう理解し、それにどう適応していくかの連続である。



メンリガークリニックにおける病棟スタッフ・ミーティング

要求がましさに受けとられ嫌われる人もみかける。どんな苦境においても、まず一杯の努力とあとでこの努力が足りなかったかをふりかえり、自分に責任を持つとする。そして、それが最低限であると思ふ。それでこそ人から愛されるのだと思ふ。メンリガーの教育やチーム医療では、こうした人間関係の基を大切にしながら、上下の関係のなかの下から上、上からの両方向の交流がしっかりと行なわれている。日本でもアメリカでも人間関係の基は同じなのである。

今年、アメリカでは「ブースア・サウス」という南北戦争を題材としたテレビ映画が評判になりました。その舞台が私の留学していたイーストコートのサウスカロライナ州チャールストンです。チャールストンは南北戦争の発端地として知られており、歴史の流れから、この土地は絶対的に有り得ないことですが、もし南部が南北戦争に勝っていたら、恐らくアメリカの首都は、ここチャールストンか、ジョージア州のアトランタになっていたと言われている。

現在のチャールストンは人口約二十万人の静かな田舎町ですが、植民地時代のヨーロッパ風の建物が立ち並び、他のアメリカの町とは異なった雰囲気があり、多くの観光客を集めています。そのダウンタウンの中心に私の留学している MUSC (Medical University of South Carolina) があつて、MUSC は医学部、歯学部、薬学部、看護学部の四学部から成り、その他に MUSC に隣接して三つの大きなプライベートルホスピタルがあり、一大メディカルコンプレックスを形成しています。

私は MUSC のファミリー・メディスンに所属し、その一部門であるプライベートルホスピタルで研究に従事しています。アメリカでは医学の急速な専門分化に伴い、また多くの弊害が現れてきていることは、日本でもよく知られている事実です。その一つに、専門医の過剰と地域の一線医療（プライマリ・ケア）に携わる医師の不足があります。MUSC のファミリー・メディスンは、こうした地域のプライマリ・ケアに担うファミリー・メディスン養成のために一九七一年に設立された。レジデントのコースは三年で、現在二名のレジデントが研修に励んでいます。

そのカリキュラムは三年間の間に臨床各科をローテーションし、ファミリー・メディスンとして地域の保健医療のニーズに応えるための幅広い医学知識が獲得できるように工夫されています。内科は当然として、小児科、産科に多くの時間を割いているのが特徴です。レジデントの三年目は、大部分の時間がレジデントの選択に任せられており、カリキュラムに柔軟性を持たせています。

MUSC のファミリー・メディスンの特徴の一つは、疾病とその患者の背景にある社会的因子との関係に積極的な目を向けている点です。これは、ファミリー・メディスンの専門性を医学と社会科学の接点に求めようとするためだと思えます。スタッフとして、心理学者、社会学者、ソーシャルワーカー等が多いのもファミリー・メディスンの特徴の一つで、ファミリー・メディスンの目指している方向がスタッフの配置にも現われています。

私が研究に従事しているプライベートルホスピタルはファミリー・メディスンの部門ですが、ファミリー・メディスンとはかなり異なり、純粋な研究機関で、現在農業中毒の研究を主要テーマにしています。MUSC は州立のため、パブリックサービス活動に力を入れており、プライベートルホスピタルでも月一回程度地域に出て、医師、農産、コミュニティ・リーダー等に農業中毒の予防について講演して回ります。それに付いて行くとして、しばしば農民やコミュニティ・リーダーから「日本は何故農産物の輸入制限をするのか」と聞かれ閉口します。アメリカの農業は、現在深刻な不況で、日本と同様に、過剰生産を調節するために作付け制限等が行われているような状況にあります。

教室紹介

福岡大学精神医学

開講当初はわずか七名であつたが、教室員も現在では五十名を越す大所帯になりました。出陣部門は病棟から従来の五階北から一昨年十一月、新築した西別館一階に移転し、精神科 I C 室の七（七）を兼ね備えた六十床の開放病棟となり、大地に抱かれゆとりを持つすべた居住空間の国際交流も盛んになっています。最近では国内のみならず、学問の国際交流も盛んになっています。その中で西園教授が今年春、ワシントンで開かれるアメリカ精神医学会総会の特別講演の講師として日本人として初めて招聘を受けたことが、この教室員にとっても大変な名誉です。その甲斐あって外来患者は新患が年間千名を越えつつあり、イケアを普及させる運動の中心（文責 医局長小林隆児）

その他、学校精神衛生、産業精神衛生などが昨今非常に重要視されてきていますが、こうした領域にも積極的に入りながら、地域に奉仕出来る精神医療を行なうよう努めています。一昨年は日本精神神経学会総会を引受け、昨年は日本医学教育学会の発行委員長を西園教授が務め、さらに今年は日本精神分析学会を福岡で開催する予定です。最近では国内のみならず、学問の国際交流も盛んになっています。その中で西園教授が今年春、ワシントンで開かれるアメリカ精神医学会総会の特別講演の講師として日本人として初めて招聘を受けたことが、この教室員にとっても大変な名誉です。その甲斐あって外来患者は新患が年間千名を越えつつあり、イケアを普及させる運動の中心（文責 医局長小林隆児）

分たの経験のどの部分に於てはまるのか確かめようとする。私は、その先頭に立ってやりたと思っています。大学当局は勿論、医学部、本院の多岐の御援助、御指導を御願ひ致します。

私の心を魅了している小児精神科医がいる。秀才の誉れ高い人で、将来の大成が望まれている。秀才の誉れ高い人で、将来の大成が望まれている。秀才の誉れ高い人で、将来の大成が望まれている。

ウー・ジニア州といえ、アメリカ独立二〇〇周年にあつた、天皇・皇后陛下が訪れパレードを行い、一九八三年には、中曽根首相の宇宙中継の映像がレカンに於ける堂々とした姿が、この有名人に於ける各国首脳会議（サミット）が開かれたウィリアムス・ブークが記憶に新しいと存じます。この豊かな自然と歴史のウー・ジニア州の州都がリッチモンドで、このウー・ジニア大学の小児科で研究活動を行っています。古い州都だけに敷地内には新・旧多数の附属病院・研究施設があり、互いに橋で連結し巨大な複合体を形成しています。

小児医療センターは約二〇〇床を有し、一〇人の教授以下、各分野のスタッフも多く活気が満ちています。私が所属している小児腎臓科は、水・電解質代謝異常（腎尿細管性アシドーシス、バスター症候群）、ヒタミンド代謝異常（低リン血症性骨軟化症）、慢性腎不全児の栄養障害、腎性骨異常症など、これらの機序および治療を中心に、それぞれアンニマルプロジェクト、クリニカルプロジェクトに分け仕事が進められています。また心臓移植とともに腎移植も盛んで、日本にもテレビで度々紹介されたようです。私の現任の個人判断ですが、実に合理的に運営されているように思えます。赤字なるが故に、いつも隅の方に押し込まれ勝ちな小児医療をもう一度見直す必要があると思つています。

次に研修システムですが、ここでは二年度まで細かく研修プログラムが作られています。（別表参照）一年目は一般病棟三〜四カ月を中心に、新生児を含めた集中医療および外来研修があり、正常成熱児の取り扱いにも一月を割いています。二年目は行動異常の他、各臓器別にさらに木目細かく分けて、三年目は一〜二年目の指導をもつた自分たちの専門分野を模索する期間に充てています。その後は、臓器別の専門分野（Pediatric Intensive Care Unit）ですが、ここでは、ほ

ケア・トレーニングプログラムが組まれているのが印象的です。現在、日本では小児専門医制度が再び問題となり制度化されつつありますが、過去の失敗を繰り返すことのないよう小児医療の在り方についても卒後研修の在り方についても、多少とも見聞を広めたいと考えています。

教室紹介

福岡大学精神医学

開講当初はわずか七名であつたが、教室員も現在では五十名を越す大所帯になりました。出陣部門は病棟から従来の五階北から一昨年十一月、新築した西別館一階に移転し、精神科 I C 室の七（七）を兼ね備えた六十床の開放病棟となり、大地に抱かれゆとりを持つすべた居住空間の国際交流も盛んになっています。最近では国内のみならず、学問の国際交流も盛んになっています。その中で西園教授が今年春、ワシントンで開かれるアメリカ精神医学会総会の特別講演の講師として日本人として初めて招聘を受けたことが、この教室員にとっても大変な名誉です。その甲斐あって外来患者は新患が年間千名を越えつつあり、イケアを普及させる運動の中心（文責 医局長小林隆児）

その他、学校精神衛生、産業精神衛生などが昨今非常に重要視されてきていますが、こうした領域にも積極的に入りながら、地域に奉仕出来る精神医療を行なうよう努めています。一昨年は日本精神神経学会総会を引受け、昨年は日本医学教育学会の発行委員長を西園教授が務め、さらに今年は日本精神分析学会を福岡で開催する予定です。最近では国内のみならず、学問の国際交流も盛んになっています。その中で西園教授が今年春、ワシントンで開かれるアメリカ精神医学会総会の特別講演の講師として日本人として初めて招聘を受けたことが、この教室員にとっても大変な名誉です。その甲斐あって外来患者は新患が年間千名を越えつつあり、イケアを普及させる運動の中心（文責 医局長小林隆児）

ウー・ジニア州といえ、アメリカ独立二〇〇周年にあつた、天皇・皇后陛下が訪れパレードを行い、一九八三年には、中曽根首相の宇宙中継の映像がレカンに於ける堂々とした姿が、この有名人に於ける各国首脳会議（サミット）が開かれたウィリアムス・ブークが記憶に新しいと存じます。この豊かな自然と歴史のウー・ジニア州の州都がリッチモンドで、このウー・ジニア大学の小児科で研究活動を行っています。古い州都だけに敷地内には新・旧多数の附属病院・研究施設があり、互いに橋で連結し巨大な複合体を形成しています。

小児医療センターは約二〇〇床を有し、一〇人の教授以下、各分野のスタッフも多く活気が満ちています。私が所属している小児腎臓科は、水・電解質代謝異常（腎尿細管性アシドーシス、バスター症候群）、ヒタミンド代謝異常（低リン血症性骨軟化症）、慢性腎不全児の栄養障害、腎性骨異常症など、これらの機序および治療を中心に、それぞれアンニマルプロジェクト、クリニカルプロジェクトに分け仕事が進められています。また心臓移植とともに腎移植も盛んで、日本にもテレビで度々紹介されたようです。私の現任の個人判断ですが、実に合理的に運営されているように思えます。赤字なるが故に、いつも隅の方に押し込まれ勝ちな小児医療をもう一度見直す必要があると思つています。

次に研修システムですが、ここでは二年度まで細かく研修プログラムが作られています。（別表参照）一年目は一般病棟三〜四カ月を中心に、新生児を含めた集中医療および外来研修があり、正常成熱児の取り扱いにも一月を割いています。二年目は行動異常の他、各臓器別にさらに木目細かく分けて、三年目は一〜二年目の指導をもつた自分たちの専門分野を模索する期間に充てています。その後は、臓器別の専門分野（Pediatric Intensive Care Unit）ですが、ここでは、ほ

ケア・トレーニングプログラムが組まれているのが印象的です。現在、日本では小児専門医制度が再び問題となり制度化されつつありますが、過去の失敗を繰り返すことのないよう小児医療の在り方についても卒後研修の在り方についても、多少とも見聞を広めたいと考えています。

UCLA より
向野 賢治
こちらに来て三ヶ月が過ぎ、アメリカの生活にもようやく慣れてきたところです。私は UCLA 医学部の腫瘍外科に所属しています。私のボスは人江礼子教授で岡田教授の友人です。私の研究テーマは「癌抗原としての糖脂質が癌細胞膜上でどんな機能を担っているのか」を調べることで、これを膜流動性の観点から追求したいと私は考えています。また、これは臨床教室ですので、アメリカにおける癌治療の実態をつぶさに見たいと思つています。

教室紹介

福岡大学精神医学

開講当初はわずか七名であつたが、教室員も現在では五十名を越す大所帯になりました。出陣部門は病棟から従来の五階北から一昨年十一月、新築した西別館一階に移転し、精神科 I C 室の七（七）を兼ね備えた六十床の開放病棟となり、大地に抱かれゆとりを持つすべた居住空間の国際交流も盛んになっています。最近では国内のみならず、学問の国際交流も盛んになっています。その中で西園教授が今年春、ワシントンで開かれるアメリカ精神医学会総会の特別講演の講師として日本人として初めて招聘を受けたことが、この教室員にとっても大変な名誉です。その甲斐あって外来患者は新患が年間千名を越えつつあり、イケアを普及させる運動の中心（文責 医局長小林隆児）

その他、学校精神衛生、産業精神衛生などが昨今非常に重要視されてきていますが、こうした領域にも積極的に入りながら、地域に奉仕出来る精神医療を行なうよう努めています。一昨年は日本精神神経学会総会を引受け、昨年は日本医学教育学会の発行委員長を西園教授が務め、さらに今年は日本精神分析学会を福岡で開催する予定です。最近では国内のみならず、学問の国際交流も盛んになっています。その中で西園教授が今年春、ワシントンで開かれるアメリカ精神医学会総会の特別講演の講師として日本人として初めて招聘を受けたことが、この教室員にとっても大変な名誉です。その甲斐あって外来患者は新患が年間千名を越えつつあり、イケアを普及させる運動の中心（文責 医局長小林隆児）

ウー・ジニア州といえ、アメリカ独立二〇〇周年にあつた、天皇・皇后陛下が訪れパレードを行い、一九八三年には、中曽根首相の宇宙中継の映像がレカンに於ける堂々とした姿が、この有名人に於ける各国首脳会議（サミット）が開かれたウィリアムス・ブークが記憶に新しいと存じます。この豊かな自然と歴史のウー・ジニア州の州都がリッチモンドで、このウー・ジニア大学の小児科で研究活動を行っています。古い州都だけに敷地内には新・旧多数の附属病院・研究施設があり、互いに橋で連結し巨大な複合体を形成しています。

小児医療センターは約二〇〇床を有し、一〇人の教授以下、各分野のスタッフも多く活気が満ちています。私が所属している小児腎臓科は、水・電解質代謝異常（腎尿細管性アシドーシス、バスター症候群）、ヒタミンド代謝異常（低リン血症性骨軟化症）、慢性腎不全児の栄養障害、腎性骨異常症など、これらの機序および治療を中心に、それぞれアンニマルプロジェクト、クリニカルプロジェクトに分け仕事が進められています。また心臓移植とともに腎移植も盛んで、日本にもテレビで度々紹介されたようです。私の現任の個人判断ですが、実に合理的に運営されているように思えます。赤字なるが故に、いつも隅の方に押し込まれ勝ちな小児医療をもう一度見直す必要があると思つています。

次に研修システムですが、ここでは二年度まで細かく研修プログラムが作られています。（別表参照）一年目は一般病棟三〜四カ月を中心に、新生児を含めた集中医療および外来研修があり、正常成熱児の取り扱いにも一月を割いています。二年目は行動異常の他、各臓器別にさらに木目細かく分けて、三年目は一〜二年目の指導をもつた自分たちの専門分野を模索する期間に充てています。その後は、臓器別の専門分野（Pediatric Intensive Care Unit）ですが、ここでは、ほ

ケア・トレーニングプログラムが組まれているのが印象的です。現在、日本では小児専門医制度が再び問題となり制度化されつつありますが、過去の失敗を繰り返すことのないよう小児医療の在り方についても卒後研修の在り方についても、多少とも見聞を広めたいと考えています。

UCLA より
向野 賢治
こちらに来て三ヶ月が過ぎ、アメリカの生活にもようやく慣れてきたところです。私は UCLA 医学部の腫瘍外科に所属しています。私のボスは人江礼子教授で岡田教授の友人です。私の研究テーマは「癌抗原としての糖脂質が癌細胞膜上でどんな機能を担っているのか」を調べることで、これを膜流動性の観点から追求したいと私は考えています。また、これは臨床教室ですので、アメリカにおける癌治療の実態をつぶさに見たいと思つています。

(二面よりつづ)
い業績を残して、無事日本に帰還するつもりです。その時は、またよろしく。
また、こちらにいられた時は、ぜひお立ち寄り。
コロラドより
黒木 求
コロラド州デンバーは、ロッキーマウンテンの東の麓、海抜一、六〇〇メートルの地にあり、マイル・ハイツと呼ばれています。人口二二〇万人に達し、一五〇万台の車が走り、また地形的要因もあって、周囲の美しい自然とは対照的にアメリカでも有数の大気汚染の街として知られています。戦争中は日系アメリカ人のキャンプがあったため、今も日系人が多く、タウン・ダウンにはサウス・ウエストと呼ばれたお寺や日本食料品店の並んだ一角があります。市内には数多くの公園と、至るところにゴルフ場があり、仕事や英会話よりもゴルフの腕を上げて帰国される方も少なくない聞きます。英会話と言えは苦勞が絶えませんが、先日のテレビのインタビューで、私と同程度の英語力と聞かれたのが、画面には字幕スライダで入っているのを見て、ナルホドと愛に感心してしまいました。自分の子供達がいつの間にかアメリカン・イングリッシュをしゃべるようになるのを望むのは嬉しいのですが、それをしはば聞き返さなければならぬのは、個人に能力は別にかえりません。個人の能力は別に

して、受験英語は読み書きには役立っても、実用英語にはむしろ害の方が大きいのではないかと感じます。
さて、私が働いているところは、デンバー総合病院の外科腫瘍学という研究室です。病院で手術が主体で、私のいる研究室以外には基礎的研究をやっている人が少なく、また福大のように医学部から（数に制限はなく、50の大学にアプライした人）といふこと（です）書類を取り寄せ、主にエッセイを書いて送ります。その医学部から興味を持たれたら、面接を受け結果を待つということになります。日本の制度と非常に異なることは、医学部により多少の差はありますが、高校、大学の成績及び学力テストの比重は、

半分程度で、受験者の平均点以上あれば十分チャンスがあり、残りの半分は論文、面接ともに職歴と経験が非常に重要視されるということです。一概にこの制度が良いとは言えませんが、日本でも記憶量以外のファクターをもっと導入すべきではないかと思ひます。
あつという間に二度目の冬がやって来ましたが、この広大な豊かな国で日本の諸々から隔離されて仕事に専念できることはとても幸せなことだというのが、私の感想です。

（二面よりつづ）
い業績を残して、無事日本に帰還するつもりです。その時は、またよろしく。
また、こちらにいられた時は、ぜひお立ち寄り。
コロラドより
黒木 求
コロラド州デンバーは、ロッキーマウンテンの東の麓、海抜一、六〇〇メートルの地にあり、マイル・ハイツと呼ばれています。人口二二〇万人に達し、一五〇万台の車が走り、また地形的要因もあって、周囲の美しい自然とは対照的にアメリカでも有数の大気汚染の街として知られています。戦争中は日系アメリカ人のキャンプがあったため、今も日系人が多く、タウン・ダウンにはサウス・ウエストと呼ばれたお寺や日本食料品店の並んだ一角があります。市内には数多くの公園と、至るところにゴルフ場があり、仕事や英会話よりもゴルフの腕を上げて帰国される方も少なくない聞きます。英会話と言えは苦勞が絶えませんが、先日のテレビのインタビューで、私と同程度の英語力と聞かれたのが、画面には字幕スライダで入っているのを見て、ナルホドと愛に感心してしまいました。自分の子供達がいつの間にかアメリカン・イングリッシュをしゃべるようになるのを望むのは嬉しいのですが、それをしはば聞き返さなければならぬのは、個人に能力は別にかえりません。個人の能力は別に

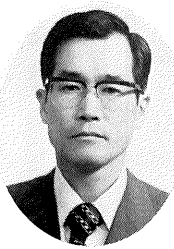
福岡大学医学会総会・例会の報告

日時 昭和60年7月24日（水）
午後3時より
場所 福岡大学医学部臨床大講堂
第八回総会
議事
1、報告事項
2、役員改選
3、59年度会計報告ならびに60年度予算（案）
4、会費徴収の件について
5、その他
第十三回例会
1、一般講演
2、特別講演
外科第二助教授
「肺移植の現況と展望」
司会 犬塚 貞光教授

（1）公衆衛生学助手
増田 登
（2）産婦人科学助手
司会 重松 峻夫教授
井植 邦雄
（3）精神医学講師
司会 白川 光一教授
小林 隆児
「仔免疫応答におよぼす母体免疫の効果」
司会 小田 禎一教授
「自閉症児の精神発達と経過に関する臨床的研究」
司会 小田 禎一教授

自己紹介

昭和六十一年四月以降本学へ赴任または昇格された教授、助教授、講師の方に自己紹介をしていただきました。以下原文のまま掲載します。
松崎 昭夫
筑紫病院整形外科教授
昭和六十一年四月以降本学へ赴任または昇格された教授、助教授、講師の方に自己紹介をしていただきました。以下原文のまま掲載します。



私は下手の横好きで山登り、釣り、油絵、アマチュア無線、その他いろいろとを楽しませてきました。この三月月曜日の様な暇はあがりません。台風で倒れたアンテナを修理しましたがコンディションの方がよくなりました。時に二mのスイッチを入れてみますが医学部ハムクラブJH6YTXメンバートつながったことはあります。on air meetingに加わればよいと思ひます。
病院の将来計画が早く決り、総合病院として動ける日が一日も早くくることを待ちがれております。

暫定病院以来勤務しているわけで今更自己紹介でもないと思ひます。六月より新設の筑紫病院に移り、七月一日より診療を行っております。筑紫病院は開かれていたことと実際の違い、常識では考えられないことが山あり谷ありで、衛生上は最悪の状態です。人数が少なく、学会出席もはばかられる状態です。福大病院開設以来つみ重ねた症例や利用出来るようになったデータは福大病院の方にあります。利用出来ません。本を讀むことも図書室はありません。医学部に買っていた本が何冊かありますが昼間は読む暇がありません。夜は閉まりますし、設置場所よりの持出しは現在出来ません。調べ事をすると外に頼らなくてはならないと寄せて夜読むのがやります。七時前に家を出て八時前に病院に着きますが電車の中で本が読めることと患者を自分で派手なようにしたことは嬉しいことです。面白い病気をみつけることが出来ます。手術件数は結構あり、他科ベットの借



父の勤務先の広島市生まれ、原爆投下の数日前に郷里の福岡市に遷り九死に一生を得ました。当時は幼少のため記憶にあいませんが広島は第二の故郷として、いつかはなほ広島カブのファンです。昭和四十二年山卒業後、九大病院内科系研修医として、第一、二内科、循環器、呼吸器、神経、心療内科、麻酔科をローテーションしました。当時、研修医は内科系、外科系その他の科等二つに分かれていたが、内科系から麻酔科にローテーションしたのは麻酔科に開講以来初めてだったと云います。それ以来、麻酔科ローテーションは外科医専門コースの様に考えられており、内科からのローテーションを受け入れる必要性は認められていませんでした。しかし、当時はインテリ制度が廃止された直後でもあり、新しい研修医制度スタートの時期で、新たな試みを受け入れてくれる状況にあり、研究室内も全て青医連に占拠され、新人医局員は出張を拒否し、我々は出張病院をたらい回しとなり、惨めな思いをしたものでした。例の「君は僕を悩ますのか」が流行った時代です。御陰で女房は引越した名となり、本人は自費酒を飲んでいるうちに本当の酒飲みになってしまいました。CTPを眺めながら、ちびちびやっていた昨今です。幸いにも第一内科（九大）の出張病院ではいい先輩に恵まれ、しっかりと扱われましました。

内科学第二講師 関 雅彦

福大病院に移ってから、早、十年たち、志村教授のもとで消化器病、潰瘍性大腸炎（クローン病）の外科と炎症性疾患（クローン病）の内科として重症の呼吸不全についての関心が出てきました。呼吸不全に関する研究は、ガス交換に際しての呼吸器のメカニクスと血液ガス、酸、塩基平衡に関する分野等がありますが、これらに関連する機能として、呼吸器の制御機能に関する分野が興味あります。この分野に特に関心があり、またこれに関する学会報告は、当時比較の少ない状態です。昭和五十四年四月着任後、毎年学会発表した呼吸調節に関する研究をまとめ、昨年、学位の授与を受けました。呼吸調節機構は生物種差や質差も大で、例えば陸上と海中生物では酸素と高炭酸ガス状態に対する反応は明らかに異なっていることが知られています。また、人においても、宇宙や海底への生活環境の拡大や、高地、寒冷地帯等の異常環境に対する適応や順応性には呼吸調節の重要性が再認識されつつあります。疾病に対する検討と同時に今後更にこの方面の研究を進展させて行ければと考えている昨今です。



梅野 寿実
出身は長崎の対馬ですが、四才の時より福岡市で育ち、大学は昭和四十九年に鹿児島大学を卒業しました。学生時代はバスケット部で走り回り、麻雀をしては徹夜で遊び、ダンスフロアを徘徊し、時にはデモにゾロゾロとついていき、そして試験は徹夜で勉強する生活でした。当時の鹿児島大学はまだ二期校で九州はおろか西日本各地より学生が集まっており、ユニークな人間も多く結構楽しい学生生活を鹿児島で過ごしました。それにしても松島の灰には参りました。

出身は福岡県飯塚市です。昭和五十年に鹿児島大学を卒業し、福大病院第一外科に入局しました。入局当時は大学病院らしい体制も整っていませんでしたが、二、三ヶ月遅れて来た有馬先生（現筑紫病院外科）のもとで直接消化器外科のイロハをおしえていただき現在まで消化器外科を専門にやってきました。有馬先生も今年より筑紫病院に赴任され、責任の重大さを感じるとともにこれを機会により一層奮起して消化器外科の分野の充実を計りたいと考えています。
それにしても私が入局したころの先生方も一人去り二人去りと少なかり、気がついてみると私が三番目に古くなっているのは愕然とさせられ、まさに十年一昔の思いがします。今思えば少人数だったころの family 的な医局が懐かしい気持でもありません。当時は酒を飲むのも多くは先輩の先生方と一緒にでしたが、教室では聞けない話も聞かされていたので結構面白くまたためにもなり、最近の若い先生方も自分から積極的に先輩から話を聞きだす程の向上心が欲しいもので、（特に外科は経験学ですから）みなでわたれば……的な雰



三井 徹次
出身は福岡県飯塚市です。昭和五十年に鹿児島大学を卒業し、福大病院第一外科に入局しました。入局当時は大学病院らしい体制も整っていませんでしたが、二、三ヶ月遅れて来た有馬先生（現筑紫病院外科）のもとで直接消化器外科のイロハをおしえていただき現在まで消化器外科を専門にやってきました。有馬先生も今年より筑紫病院に赴任され、責任の重大さを感じるとともにこれを機会により一層奮起して消化器外科の分野の充実を計りたいと考えています。
それにしても私が入局したころの先生方も一人去り二人去りと少なかり、気がついてみると私が三番目に古くなっているのは愕然とさせられ、まさに十年一昔の思いがします。今思えば少人数だったころの family 的な医局が懐かしい気持でもありません。当時は酒を飲むのも多くは先輩の先生方と一緒にでしたが、教室では聞けない話も聞かされていたので結構面白くまたためにもなり、最近の若い先生方も自分から積極的に先輩から話を聞きだす程の向上心が欲しいもので、（特に外科は経験学ですから）みなでわたれば……的な雰

今村健三郎



出身は鹿児島市です。昭和五十年に鹿児島大学を卒業し、福大病院第一内科に入局しました。二年間の研修医ののち、現在福大病院の八尾研究室に在籍して消化器疾患の診断学にたずさわって参りました。特に早期胃癌やクローン病等の腸疾患の診断に最も興味を注いでいます。消化器の診断学の修練には徒弟制度的な色合いがかなりあり、研究室に入った当初は、先輩達の胃透視検査につき、フィルム交換を手伝いながら学んできたものでした。また、研究室の主任がフィルムを撮影するのを後から見てもらっていたり、少しづつ診断学が分かっていって来ます。昭和六十一年六月より福大に奉職させて頂き、現在福大病院にて、八尾教授のもとで、若い先生達と一緒にがんばっております。今は消化器というよりむしろ教える立場になり、いささか危惧の念を禁じ得ませんが、卒業後ないドクター達が消化器の診断学に興味を持ってもらえる様子を願っています。最近ゴルフを始めまして、この機会に明るい遊びに専念しようかと考えております。

出身は福岡県飯塚市です。昭和五十年に鹿児島大学を卒業し、福大病院第一外科に入局しました。入局当時は大学病院らしい体制も整っていませんでしたが、二、三ヶ月遅れて来た有馬先生（現筑紫病院外科）のもとで直接消化器外科のイロハをおしえていただき現在まで消化器外科を専門にやってきました。有馬先生も今年より筑紫病院に赴任され、責任の重大さを感じるとともにこれを機会により一層奮起して消化器外科の分野の充実を計りたいと考えています。
それにしても私が入局したころの先生方も一人去り二人去りと少なかり、気がついてみると私が三番目に古くなっているのは愕然とさせられ、まさに十年一昔の思いがします。今思えば少人数だったころの family 的な医局が懐かしい気持でもありません。当時は酒を飲むのも多くは先輩の先生方と一緒にでしたが、教室では聞けない話も聞かされていたので結構面白くまたためにもなり、最近の若い先生方も自分から積極的に先輩から話を聞きだす程の向上心が欲しいもので、（特に外科は経験学ですから）みなでわたれば……的な雰

出身は福岡県飯塚市です。昭和五十年に鹿児島大学を卒業し、福大病院第一外科に入局しました。入局当時は大学病院らしい体制も整っていませんでしたが、二、三ヶ月遅れて来た有馬先生（現筑紫病院外科）のもとで直接消化器外科のイロハをおしえていただき現在まで消化器外科を専門にやってきました。有馬先生も今年より筑紫病院に赴任され、責任の重大さを感じるとともにこれを機会により一層奮起して消化器外科の分野の充実を計りたいと考えています。
それにしても私が入局したころの先生方も一人去り二人去りと少なかり、気がついてみると私が三番目に古くなっているのは愕然とさせられ、まさに十年一昔の思いがします。今思えば少人数だったころの family 的な医局が懐かしい気持でもありません。当時は酒を飲むのも多くは先輩の先生方と一緒にでしたが、教室では聞けない話も聞かされていたので結構面白くまたためにもなり、最近の若い先生方も自分から積極的に先輩から話を聞きだす程の向上心が欲しいもので、（特に外科は経験学ですから）みなでわたれば……的な雰

第12回 医学部

慰霊祭

十月二十六日午後三時より、積善社「福岡講堂」にて、医学部慰霊祭が行なわれた。
遺族、来賓、本学関係者、医学部、附属看護専門学校生など約六〇〇人の参列のもと、百七十九霊位（正當解剖関係61、病理解剖関係18）を供養し、菊池医学部長があいさつを述べ、祭詞を朗読、附屬看護専門学校生が花束を奉呈した。

教室便り

西園 昌久
（精神医学）
アメリカ精神医学会（American Psychiatric Association）の「客員特別会員（Corresponding Fellowship）」に選出された。

学位取得

高 地 恭 二
（病理学第1）
福岡大学に提出。昭和六十一年一月十四日付で医学博士授与。

論文名「Significance of adventitial inflammation of the coronary artery in unstable angina: results at autopsy」（不安定狭心症における冠動脈外膜の炎症の意義について）（剖検例による検討）
期 啓 一 郎

（内科学第1）
福岡大学に提出。昭和六十一年一月十四日付で医学博士授与。

論文名「Mechanism of action of gemfibrozil on lipoprotein metabolism」（ジベプロゾールの作用機構）
一 木 貞 徳
（小児科学）
福岡大学に提出。昭和六十一年一月十四日付で医学博士授与。

論文名「A Comparative study on production kinetics and immunological properties of carcinoembryonic antigen and nonspecific cross-reacting antigen synthesized by various human tumor cell lines」（種々の人間癌細胞株による産生された癌胎児性

学術交流

昭和六十年度四月以降の海外留学または海外出張者はつぎのとおり。
①研修先②目的③期間

海外留学

歐 博（衛生学）①アメリカ The Department of Family Medicine, Medical University of South Carolina. ②産業衛生学。Family Medicine ③9.6.11~61.5.31
調 重昭（耳鼻咽喉科）①西ドイツ・フランクフルク大学②神経科学③60.7.19~60.10.17
黒木 求（生化学第1）①アメリカ・デンバー総合病院②癌病棟の研究③60.6.10~61.10.9
田口 尚（病理学第1）①ドイツ・フランクフルク大学②病理学教室③腎臓の病理学③60.6.10~61.8

林 英（眼科）①アメリカ Beth Israel 病院②眼外傷における組織反応及び薬物の影響に関する実験的研究③60.6.1~61.8.31
亀井 博（内科学第1）①アメリカ University of Minnesota ②神経筋疾患の電気生理学的研究③60.10.25~61.10.10
向野 賢治（微生物学）①アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス分校②入江礼子教授室（腫瘍外科学教室）③癌免疫療法の研究③60.8~62.8

海外出張

坂本 公孝（泌尿器科）①オーストラリア②第20回国際泌尿器科学会講演③60.6.22~60.7.6
有吉 朝美（泌尿器科）①韓国②第2回回韓泌尿器科学会講演③60.10.3~60.10.9
江崎 廣次（仲吉 則雄（衛生学）①韓国②第3回回韓農林医学③60.5.21~60.6.27
波多江純真（生理学第1）①中華人民共和国②講演及び共同研究③60.7.15~60.7.23
浜本 邦洋・貝塚 博美（小児科学）①アメリカ②第2回世界小児心臓学会出席③60.9.1~60.9.14
池田 靖洋（外科学第1）①ウ

来訪

吉田 稔（内科学第1）①アメリカ（カリフォルニア）大学②サンフランシスコ（校他）③短期在外研究員③60.7.6~60.9.6日間
昭和六十年度四月以降、本学医学部または病院を訪れた外国学者はつぎのとおり。①所属②目的③来訪日
Joachim W. Herzig, M.D. ①スイス・バーゼル Sandoz 基礎薬学研究所研究員
③講演「心筋の収縮と代謝」③60.9.1~
Prof. Dr. Günter Niemeyer, M.D. ①Neurophysiology Laboratory, Department of Ophthalmology, University of Zurich, Switzerland ③講演「Neurobiology of the peripheral mammalian eye」③60.9.15
Prof. Dr. John A. S. McGuigan, M.D. ①Department of Physiology, University of Berne, Switzerland ③講演「Calcium exchange in mammalian heart」③60.10.8
Bengt Robertson, M.D. ①スウェーデン・カロリンスカ研究所小児病棟教授③肺サーファクタント補充療法に関する共同研究講演（研究助）「Recent advances in surfactant replacement therapy」③60.11.1~60.11.11
Desouqi Suad T. Y., M.D. ①エルズ大学 Dept. of Ophthalmology and Visual Science ③視覚科学における細胞生物学の研究のため③60.5.15~60.10.9
小川 皓一（解剖学第1）①ギリシア・ロンドン②第12回国際解剖学参加のため③60.8.10~60.8.24
曾 昭 暉（解剖学第1）①ギリシア・ロンドン②第12回国際解剖学参加のため③60.8.10~60.8.24
金岡 毅（産科婦人科学）①スウェーデン・ウプサラ②第10回アジア大洋州産科婦人科学会（The 10th Asian Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology (Columbo), The 11th World Congress of Gynecology and

新刊紹介

五・四・一五〇〇円
小田 稔（小児科学）①必修小児科学第2版（分冊、藤原病）③南江堂③一九八五・七・二〇
八・五〇〇円
松崎昭夫（整形外科、整形外科）①整形外科図譜③部位別疾患（分冊）③金原出版③一九八五（分冊）③三〇〇〇円
中村 豊（健康増進学）①産業精神医学（分冊）③医歯薬出版③一九八五③九・八〇〇円
菊池昌弘（病理学第1）①リンパ節の病理（分冊）③文光堂③一九八五③一〇〇〇円
金岡 毅（産科婦人科学）①新生児の観察と取り扱い③新興医学出版社③一九八五③六・三〇〇円
大島健司（眼科）①眼科 MBOOK25 眼科における超音波診断（分冊）③金原出版③一九八五③九・九〇〇円
山田英智（解剖学第1）①機能形態学（分冊）③南江堂③一九八五③二〇〇〇円
奥村 伸（内科学第1）①ウィルソン病の予防③（分冊）③国際医書出版③一九八五③一八〇〇円
伊藤 伸（内科学第1）①フラマール・ケラーの処方分冊③中外医学社③一九八五③五・八〇〇円
奥村 伸（内科学第1）①肝胆道疾患の治療（分冊）③診断と治療社③一九八五③八・二〇〇円
廣木忠行（内科学第1）①医師国家試験のための内科（分冊）③金原出版③一九八五③九・九〇〇円
佐々木淳、荒川規矩男（内科学第1）①動脈硬化症の新しい診断と治療（分冊）③医歯薬ジャーナル社③一九八五③七・五〇〇円
吉田 稔（内科学第1）①老年者、歯科（分冊）③呼吸器系の病気の歯科治療③デンタルライヤモンド社③一九八五③一〇・七五〇円
荒川規矩男（内科学第1）①ブライマリアス、私の処方分冊③中外医学社③一九八五③八・六〇〇円
内藤説也、荒川規矩男（内科学第1）①臨床実習演習 一般臨床編 Clinical Simulation（分冊）③南江堂③一九八五③一八・〇〇〇円